

急性心筋梗塞における自律神経障害と不安抑うつに関連性の検討

小川明宏 1) 3), 丸岡弘 3), 寺山圭一郎 1), 秋葉崇 1), 平野圭一 2), 清水一寛 2), 中神隆洋 2), 清川甫 2), 中川晃一 1)

- 1) 東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部
- 2) 東邦大学医療センター佐倉病院 循環器センター
- 3) 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科

【背景】不安抑うつは冠動脈疾患の危険因子である。また急性心筋梗塞（AMI）の症状として自律神経障害が挙げられるが、自律神経障害と不安抑うつに関連性の検討は少ない。

【目的】AMI患者の不安抑うつと自律神経障害の関連性を調査すること。

【倫理的配慮】東邦大学医療センター佐倉病院倫理委員会および埼玉県立大学倫理委員会にて承認を得た。

【対象】研究参加に当たり説明し同意を得られた初発AMI患者。

【方法】自律神経機能の評価は心拍変動（HRV）測定、不安抑うつの評価は Hospital Anxiety and Depression Scale（HADS）を施行。不安抑うつなし群：AD(-)と不安抑うつ群：AD(+)のHRV各指標を比較。HRV測定はチェックマイハート（トライテック社）を使用。統計解析は対応のないt検定、マンホイットニーU検定、カイ2乗検定を用いた（ $P < 0.05$ ）。

【結果】研究参加者は30名で、AD(-)15名、AD(+)15名であった。年齢に差は認めなかったが、Peak CK/MBとARBの使用状況に差を認めた。その他の検査データに差は認めなかった。AD(+)においてHRV指標の一部が有意に減少を認めた（ $P < 0.05$ ）。

【まとめ】AD(+)にHRV指標に減少傾向を認めた。これらから不安抑うつ症状がHRVに影響を与えた可能性があり、AMIの自律神経障害は不安抑うつ症状に影響を受ける可能性が示唆された。